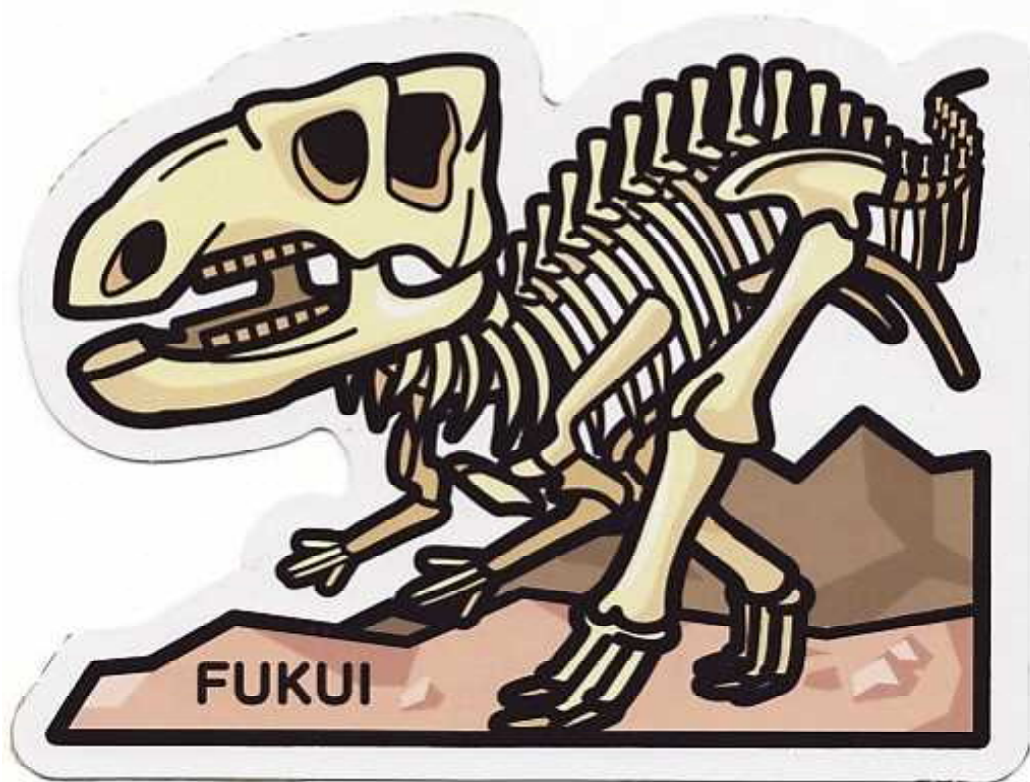


「研究の手引き」



学校保存

福井県小学校長会

目 次

はじめに	-----	1
1. 研究主題 2. 趣旨	-----	2
3. 研究の基本構想	-----	3
第1分科会 学校経営	-----	4
第2分科会 教育課程Ⅰ	-----	5
第3分科会 教育課程Ⅱ	-----	6
第4分科会 現職教育	-----	7
第5分科会 危機管理	-----	8
第6分科会 社会形成能力	-----	9
第7分科会 自立と共生	-----	10
第8分科会 連携・接続	-----	11
資料1：福井型8分科会	-----	12
資料2：発表分科会割当	-----	13

はじめに

福井県小学校長会教育研究専門委員会

今、子どもを取り巻く社会は激動の時代を迎え、教育をめぐる課題も複雑・多様化しつつあります。その変化の中で、豊かな創造性やしなやかな知性を発揮し、夢や絆、互いの個性を大切に、未来をたくましく生きる力を備えた子どもの育成が望まれ、それを実現するための教育の在り方が問われています。

こうした状況にあって、全国連合小学校長会研究協議会は平成 25 年度の三重大会から大会主題を「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」に一新しました。

それを受け、分科会も新しい大会主題に迫るため、従来の 10 分科会から 13 分科会に増設するとともに研究課題も大幅に変わりました。

そのため、福井県小学校長会においても全連小研究協議会および東海・北陸地区連合小学校長会の流れに即応すべく、従来の 8 分科会の研究領域および研究課題を一新することとなりました。県下の校長先生方への周知徹底を図るため新しい 8 分科会のスタートを、平成 27 年度の福井県小学校長会「坂井」大会からとします。

各分科会の研究課題とその趣旨、および研究の視点を「研究の手引き」としてまとめました。今後の福井県小学校長会の研究の一助になることを願っています。

「子どもは未来からの贈り物」「子どもは未来からやってきた使者」と言われます。私たち大人に 50 年後はおそらくやってきません。しかし、今を生きる子どもたちにとっては 50 年後は確実にやってくる「未来」そのものです。

50 年後の社会がどのようなになっているのか全く想像ができません。高度に IT 化した社会、ロボットが活躍する社会、高度の医療の発達により健康長寿化した社会…。子どもたちの「未来」は無数の可能性に満ちています。このような未来を切り拓く子どもたちを、今、私たちは教育しているのです。まさに、教育は「ロマン」です。

未来を築く子どもたちをどうサポートできるか—教師の使命と教育の役割は、どのような時代でも尊く、その責任は重大です。

新たな研究課題への取組は、私たち校長にとって、大いなる挑戦です。そのためにも、校長が、校長会が組織をあげて「自らの生き方を高め、信念と自負をもって進み続ける」ことを目指し、力を合わせていきましょう。

1 研究主題

新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

—豊かな心と確かな学力を身につけ
夢と希望に向けて共に生きる子どもの育成—

2 趣 旨

今日、知識基盤社会化やグローバル化が進む中、様々な社会的要因が絡み合い、困難な社会的問題や現象が出現している。これらは、教育の分野にも大きな影響を与え、既成の知識体系の枠を超えた新しい知のパラダイムが求められている。即ち、自ら考え主体的に判断する力、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて新しい知や価値を創造する能力が必要とされているのである。

このような状況を踏まえたとき、小学校教育においては、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことが責務となる。

そして、真に豊かな社会を築くためには、「主体的に生きる力」と「他者とともに生きる力」の両輪が不可欠である。つまり、一人一人が豊かな知性と感性に裏打ちされた人間性を育みながら自己実現を目指すことと、地球的規模の視野や人とのつながりを大切にした生き方を確立することが求められる。

今後、私たちには、自己の確立とともに国を超えて共に生きることがますます強く求められると考える。このような時代にあっては、私たち一人一人が様々な情報に振り回されることなく、粘り強く相互に理解し合い、共に生きることが出来る道を探っていくことが極めて大切となる。特に次代を担う子どもたちには、情報を正しく読み取り判断する力、問題を発見し解決する力、他者と円滑にコミュニケーションする力など「自立と共生」の力が求められている。

そのためには、まずは子どもたちに「夢と希望」を育むことが必要だと考える。「夢と希望」があつてこそ、子どもたちは学ぶことの意味を見だし、未来を切り拓くために努力することができると考えるからである。

特に、人間形成の基礎を培う小学校教育においては、子ども一人一人が目標を明確にし、互いに切磋琢磨しながら学び、自ら考え、身につけた知識・知恵を発揮して新しい知を創造し、人間性豊かな未来社会に向かって、夢や希望を現実のものにする力(実現力)を育むことが重要である。

そこで、副主題に「豊かな心と確かな学力を身につけ、夢と希望に向けて共に生きる子どもの育成」を掲げ、下記の新しい8分科会において校長の役割を究明していく。

- | | | | |
|----------|------------|-------------|-----------|
| (1) 学校経営 | (2) 教育課程 I | (3) 教育課程 II | (4) 現職教育 |
| (5) 危機管理 | (6) 社会形成能力 | (7) 自立と共生 | (8) 連携・接続 |

3 研究の基本構想

【研究主題】

新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く
日本人の育成を目指す小学校教育の推進
—豊かな心と確かな学力を身につけ
夢と希望に向けて共に生きる子どもの育成—

分科会	研究領域	研究課題	研究の視点
1	学校経営	創意と活力に満ちた学校経営	(1) 将来を見据えた明確な学校経営ビジョン
			(2) 学校経営ビジョンの具現化を図る活力ある運営組織の構築
			(3) 学校教育の充実を図る評価・改善の推進
2	教育課程 I	知性・創造性を育む教育課程	(1) 確かな学力を育む教育課程のマネジメント
			(2) しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育課程のマネジメント
3	教育課程 II	豊かな人間性や健やかな体を育む教育課程	(1) 豊かな心を育成する教育課程のマネジメント
			(2) 健やかな体を育む教育課程のマネジメント
4	現職教育	学校の教育力を高める研究・研修とミドルリーダーの育成	(1) 教員の意識改革を促し、資質・能力の向上を図る研究・研修の推進
			(2) 確かな展望と豊かな人間性をもち行動できるミドルリーダーの育成
5	危機管理	子どもを取り巻く様々な危機への対応	(1) 自らの命を守る安全教育の推進
			(2) いじめや不登校などを生まない学校づくりと危機管理システムの構築
6	社会形成能力	社会形成能力を育む教育の推進	(1) 社会に参画する力・態度の育成を目指す教育活動の創造
			(2) 豊かな未来の実現に貢献する力を育むキャリア教育の推進
7	自立と共生	自立と共生を図り実践的態度を育む教育の推進	(1) 子どもの自立を図る特別支援教育の推進
			(2) 「持続可能な社会」を目指した環境教育等の推進
8	連携・接続	家庭・地域・異校種等との連携・接続の推進	(1) 家庭・地域等と連携し、課題の解決に向けて取り組む学校づくりの推進
			(2) 異校種間の連携と円滑な接続を図るための組織的な取組の推進

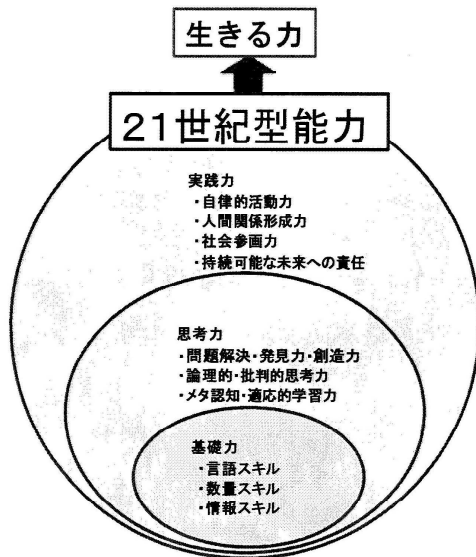
第1分科会 学校経営

1 研究課題

創意と活力に満ちた学校経営

2 趣旨

子どもたちが生きる21世紀の社会は、知識が高度化・複合化・流動化する「知識基盤社会化」や「グローバル化」が一層進展する社会である。そのような中で、保護者や地域、さらには社会全体から学校教育に寄せられる期待は大きく、求められているものも多様化してきている。



このような状況下にあつて、社会の変化や課題に真正面から向き合い、未来を切り拓くことができる子どもを育てるため、なお一層「生きる力」の育成が求められている。

昨年、国は「21世紀型能力」の育成を提案した。21世紀を生き抜く力を持った日本人に求められる能力を「思考力」「基礎力」「実践力」の3層構造で再構成し、とりわけ「思考力」をその中核に位置づけている。その思考力は「基礎力」によって支えられ、その使い方は「実践力」によって方向付けられることで「生きる力」に結実する、というわけである。

そのためには、校長は、職務に対する誇りと強い使命感を持って学校教育の理想と目標を掲げ力強いリーダーシップを発揮しなければならない。

そこで、時代の潮流を的確に見取りつつ明確なビジョンを掲げ、実効性のある組織を構築し、PDCA マネジメント力を最大限に発揮して、創意と活力に満ちた学校経営を推進していかなければならない。

3 研究の視点

(1) 将来を見据えた明確な学校経営のビジョン

学校によっては、目指すべき学校のビジョンが明確でなかったり、ビジョンがあつてもそれを達成するための戦略がなかったりする場合が見受けられる。そうすると教職員のベクトルがバラバラになり学校が進むべき道が迷路に迷い込んでしまう。

明確な学校経営ビジョンとは、目標実現への具体的な手立てや道筋が明確に示されるとともに、教職員や地域への働きかけが明瞭に意図されたものでなければならない。学校は、子どもたちの夢や希望を育み、その実現に向かう力を育成しなければならない。

そのためには、校長自身が、未来を切り拓く資質・能力を身に付けた子どもを育てるために学校の責任者としての展望を持ち、学校経営にあたるのが肝要である。

このような視点から、将来を見据えた明確な学校経営ビジョンを策定していくために校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 学校経営ビジョンの具現化を図る活力ある運営組織の構築

学校の力は、教職員一人一人の能力の「足し算」ではなく、組織としての連携・協力によって高まり、それを生み出すのは校長のリーダーシップである。そのためには、教職員の「協働性・同僚性」が発揮できる組織づくりが肝要である。

学校の様々な課題を迅速かつ適切に解決していくためには、従来の硬直した校務分掌組織では対応しきれなくなっているのが現状である。

校長として、組織に一体感を持たせるための「仕組み」や「システム」をどのようにしてつくっていくのかを究明する。

(3) 学校教育の充実を図る評価・改善の推進

時代の要請や社会の変化に主体的に対応するとともに、保護者・地域の信託に応えるために、学校は常に評価・改善に努めなければならない。

学校評価は、学校を取り巻く状況の変化を見定め、展望を持った目標を設定し、実践を吟味して経営改善に生かしていく必要がある。また、教職員評価は教職員が自ら専門性や指導力を高め、自信と誇りが持てるように活用する必要がある。

校長として、学校評価や教職員評価を学校経営に効果的に活用し、どのようにして学校力や教師力を高めていくかを究明する。

第2分科会 教育課程 I

1 研究課題

知性・創造性を育む教育課程のマネジメント

2 趣 旨

学校は、子どもたちに「生きる力」を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識や技能の習得、課題を解決するために必要な思考力・表現力などの育成、主体的に学習に取り組む態度の育成に向けて取り組むことが求められている。そのため校長は、創意ある教育課程のマネジメントを進め、実施上の諸課題の解決につながる方策を明示し、組織として改善することに努めてきた。

こうした取組に加え、これからの変化の激しい社会に柔軟に対応し、たくましく生き抜く力を育む取組が重要な教育課題となってきた。今後さらに、基本的な知識や技能の獲得を充実させ、どのような変化にも対応でき、人や仲間、地域との関わりや絆を大切し、課題を乗り越えるためのしなやかな知性・創造性を身に付けることが望まれる。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、しなやかな知性・創造性（確かな学力）を育む教育課程の具体的なマネジメントの方策を明らかにする。

3 研究の視点

(1) 確かな学力を育む教育課程のマネジメント

子どもたちが、激しく変化する社会の中で課題を乗り越え、自立的に生き抜くためには、自分で考え、仲間と学び合い、試行錯誤しながら何が必要かを見極めていく能力を身につけることが重要である。

そのためには、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得し、それを活用しながら課題解決に向けて柔軟に思考し、表現することによって、さらに思考を深めていく学習指導が展開されなければならない。そして、子どもたちの学びを適切に評価し、指導に生かすことにより、質の高い学習を成立させていくことが必要である。

このような視点から、確かな学力を育む教育課程のマネジメントに向け、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育課程のマネジメント

子どもたちに今日的な課題を克服していく力を身に付けさせるためには、全職員が子どもたちに育成すべき資質・能力・態度について共通理解を深め、そのために必要な学習指導の工夫や教材の開発について協働して取り組み、ねらいに迫る学習活動の展開に向けて評価・改善を促す仕組みを確立する必要がある。

そのためには、教育課程編成上の課題を明確にし、実践を通して課題解決を図っていく教員の意欲を引き出し、絶えずより望ましい学習活動の展開に向けて評価・改善を促すようにすることが大切である。

このような視点から、しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育課程のマネジメントに向け、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

第3分科会 教育課程Ⅱ

1 研究課題

豊かな人間性や健やかな体を育む教育課程

2 趣 旨

社会はグローバル化が進み、多文化共生の時代を迎えようとしている。国内では、人間関係の希薄化による孤立感が漂い、国外においても国際的な緊張が高まるなど、先行き不透明感や閉塞感が一層高まっている。このような社会を生きていくためには、自らを律しつつ自己の確立に努め、他人を思いやる心や感動する心などを持つ豊かな人間性が求められ、互いの個性を尊重し、絆を大切にする社会づくりに貢献できる日本人の育成が望まれている。この豊かな人間性の育成の中核となるものが心の教育であり、道徳教育や人権教育はその基盤となる。心の教育にかかる教育実践を推進するとともに、家庭や地域等との連携した取組を構築し、人間性豊かな日本人を育むための教育課程について明らかにする。

また、急激な社会の変化は、我々を取り巻く環境を大きく変え、生活習慣病やアレルギー性疾患等の健康問題や運動能力の低下、体の生育に関する問題が指摘され、子どもたちの生活や成長にも大きな影響を及ぼしている。子どもたちが生涯を通して、健やかに成長していく基盤として、運動・栄養・休養を柱とする調和のとれた基本的な生活習慣を形成することが不可欠である。

学校教育には、子どもたちが夢や希望を抱き、将来、潤いと活力のある生活を送るために、運動や健康の大切さについての意識を高め、主体的に実践する能力や態度を育むことができる教育課程を編成することが求められる。未来をたくましく生きるための体力の育成と、健康教育を推進するための教育課程について明らかにする。

3 研究の視点

(1) 豊かな心を育成する教育課程のマネジメント

豊かな心の育成は、すべての教育活動で計画的、継続的に行われるとともに、道徳の時間に補充・深化・統合されることによって、より充実が図られる。さらに、これからは子どもたちの規範意識や自尊感情を高め、夢や希望に向かってたくましく生きることができるよう、自立心を養わなければならない。このような視点に立ち、家庭や地域との連携を図った多様な人々や自然・環境等との関わりの中で、子どもの内面に根ざす豊かな心を育む道徳教育等を推進する上での校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 健やかな体を育む教育課程のマネジメント

子どもたちの生活全体から日常的な身体運動が減少しており、体力は全国的に低下・停滞状況にある。体力向上に取り組むために、体育的な活動を教育活動全体計画に位置付け、全教職員の共通理解のもと地域や学校の実態を考慮し、活動時間や内容を工夫することが求められる。

また、発育・発達の著しい小学校期の健康教育は、心身の成長発達に関する基本的な知識の習得と、健康に関する実践的な判断力や行動を選択する力を育てていく必要がある。学校体育・学校保健・学校安全・食育・学校給食等、相互に連携させながら、子どもたちの健やかな体を育むために、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

第4分科会 現職教育

1 研究課題

学校の教育力を高める研究・研修の推進とミドルリーダーの育成

2 趣 旨

社会情勢が急速に変化する中で、しなやかな知性と豊かな人間性をもって21世紀社会を「たくましくかつ共に生きる力」を子どもたちが身に付けていくために、学校の教育力の向上が求められている。各学校においては、校長のリーダーシップとマネジメントのもと、教育内容の充実を図り、教員の力を最大限に引き出しながら組織力を向上させ、学校の持つ総合的な力を高めて、様々な教育課題に対応していくことが緊要な課題である。

学校組織を活性化させ、学校の教育力を高めていくためには、校務分掌や運営の在り方などシステムの効率化もさることながら、教員の資質・能力の向上を組織的に進める中で、一人一人の学校経営への主体的な参画意識を高揚させていくことが求められている。そこにおいては、校長が目指す方向をよく理解し、学校経営の中核的な役割を果たすミドルリーダーの存在が不可欠である。

本分科会では、学校の教育力を高めるために、教員の意識改革を促し資質・能力の向上を図る研究・研修の推進について具体的な方策を明らかにするとともに、学校経営の中核を担うミドルリーダーの育成について校長として果たすべき役割を明らかにする。

3 研究の視点

(1) 教員の意識改革を促し、資質・能力の向上を図る研究・研修の推進

教員の意識改革を促し資質・能力の向上を図るためには、職場の同僚同士の協働や学び合いによる全員のレベルアップを図る取組と、個々の教員の資質・能力の向上を図る取組を連鎖させながら、絶えず実践の中から成果と課題を検証しつつ進めていくことが大切である。

そのために、校長は、授業力、学級経営力、学校経営参画意識等について、教員個々の課題と学校の課題を的確に把握し、調和を図りながら、意図的かつ計画的に校内研究・研修を充実させていくことが必要である。

このような視点から、教員の意識改革を促し、資質・能力を高める校内研究・研修を推進していくための、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 確かな展望と豊かな人間性をもち行動できるミドルリーダーの育成

ミドルリーダーには、校長の方針を具現化するために、組織をまとめ、教育活動を推進していく力が求められる。教科指導、学級経営や生徒指導等の力量はもとより、教育活動全体を見渡せる広い視野、企画力や実践的指導力、教職員間あるいは教職員と管理職間の円滑な調整力やコミュニケーション力などである。

そのために、校長は、ミドルリーダー育成を組織的・計画的に行うことが求められる。校務分掌のリーダーとしての役割を意図的に任せることを通して行う指導、職場外研修、自己啓発など、様々な方策を講ずる必要がある。また、魅力ある管理職像を積極的に示すことも大切である。

このような視点から、確かな展望をもち、変化の時代に対応して行動できるミドルリーダーを組織的・計画的に育成していくための、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

第5分科会 危機管理

1 研究課題

子どもを取り巻く様々な危機への対応

2 趣旨

近年、様々な地域において大きな地震や局地的豪雨などの自然災害による被害が危惧されている。また、交通事故をはじめとして児童虐待、不審者による連れ去りなど子どもが被害者となる犯罪・事件の発生が懸念されるなど、子どもを取り巻く危機的な状況は多様化しつつある。

さらに、高度情報化・少子高齢化・経済状況の停滞など、社会の急激な変化により様々なひずみが顕在化している。そうした中、いじめ・不登校・暴力など生徒指導上の問題は依然として深刻であり、携帯電話やインターネットに関するトラブルなどの問題も発生し新たな課題となっている。

学校は、子どもたちが安心して学習や諸活動に取り組み、かけがえのない存在として夢や希望・志を育むことが出来る安全な場所であってはならない。そして、教職員には、子どもの命を守り育む役割がある。学校は、計画的な安全教育による事件・事故の未然防止や事案発生時の即応体制など、学校安全および学校危機管理体制の確立を図ることが求められている。さらに、教職員および子どもたちの危機対応力を高め、未来へ向かって共にたくましく生きる子どもの育成が求められている。

校長は、教職員の危機管理意識をより一層高めるとともに、学校の危機管理体制を常に見直し改善を図っていくことが求められている。組織的に取り組める体制を確立し、家庭・地域・関係機関と密接に連携・協力しながら迅速に対応できるようにしていくことが重要である。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、様々な学校危機への計画的・組織的な対応を進め、危機に強い学校づくりを推進するための具体的な方策を明らかにする。

3 研究の視点

(1) 自らの命を守る安全教育の推進

学校は安全に関わる多様な訓練の機会を十分に確保するとともに、教育活動全般を通して意図的・計画的に安全教育を行うことで自分自身を守るための能力を子ども達に身につけさせる必要がある。その際には、「自分の命は自分で守る」「どこにいても自ら判断して行動できる」という視点を基本に置き、発達段階に応じた体験的学習を工夫し、危険予測・回避能力を育てていくことが求められる。

このような視点から、子どもが主体性を持って災害から自らの命を守り抜く危険予測・回避能力をはじめ、自ら判断し行動できる力を身に付けられる安全教育を推進するために、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) いじめや不登校などを生まない学校づくりと危機管理システムの構築

いじめや不登校などを生まないためには、人権尊重の精神を基本にすべての子どもの人権が尊重され、自己実現の喜びを味わい安全で安心できる居場所となる学校を目指した教育活動を展開し必要がある。そのためには、教職員が一人一人の子どもの理解に努め情報を共有し、いじめや不登校などの未然防止・早期発見や対応ができる体制を確立しておくことが求められる。

また、危機管理に強い学校組織を構築するためには、日常的に起こりうるいじめや不登校、ネットトラブル、児童虐待といった様々な課題を想定し、学校内外における連携・協働体制を確立しておく必要がある。そのためには、有効に機能する組織の在り方を常に見直すとともに、家庭・地域・関係機関や異校種間などとの連携を強化する必要がある。

このような視点から、いじめや不登校などを生まない学校づくりと危機管理システムの構築を進めていく上で、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

第6分科会 社会形成能力

1 研究課題

社会形成能力を育む教育の推進

2 趣 旨

少産少子・超高齢化、高度情報化、グローバル化など、社会が急激な変化を遂げる中において子どもたちには、その変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に、柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していく力が一層求められるようになる。

学校は、これからの社会に生きる子どもたちに、しなやかな知性と豊かな創造性や人間性を育むとともに、子どもたちが自ら置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ、他者と協力・協働して社会の様々な活動に参画する、社会形成能力の基礎を身に付けられるようにしていくことが必要である。また、キャリア教育の視点も取り入れ、幅広い学力やコミュニケーション能力や規範意識等を身に付け、社会的自立に必要な能力を高めていくようにすることも必要である。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、将来の社会を担う子どもたちに、よりよい社会の形成に向け、主体性を持って社会の活動に積極的に参画し、課題を解決していく力や態度を養うための具体的方策を明らかにする。

3 研究の視点

(1) 社会に参画する力・態度の育成を目指す教育活動の創造

今家庭や地域では、核家族化や少子高齢化が一段と進み、人間関係の希薄化による孤立感が強まっている。また、家庭の養育姿勢や地域のコミュニティの変化に伴い、子どもが地域活動に参加する機会も減少している。

学校は、子どもたちに社会の仕組みを理解させ、社会を維持しよりよいものにしていく責任は自分たち一人一人にあるという公共の精神を自覚させ、今後の社会のあり方について考え主体的に行動するという、社会の形成者にふさわしい資質や能力を育成することが求められている。

そのために、学校では、家庭や地域と連携しながら、子どもたちに様々な人々や地域活動にかかわる機会を持たせるとともに、その意義や喜びを味わわせ、夢や希望を持って絆を結ぶ未来社会を創ることのできる力を育むことが大切である。

このような視点から、自己の役割を果たしつつ、他者と協力して社会に参画し、貢献しようとする意欲や態度を身に付ける教育活動を創造し推進する上での、校長の果たす役割と指導性を究明する。

(2) 豊かな未来の実現に貢献する力を育むキャリア教育の推進

子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められている。キャリア教育は、子どもたち一人一人の将来における社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育むことを通じて、キャリア発達を促すことを目的としている。

そのために、学校では、社会の中での自己の役割を認識させ、働くことの意義や夢を持つことの大切さを理解させることが求められている。

このような視点から、教育活動全体を通じて体験的な学習活動を充実させ、豊かな未来の実現に貢献するキャリア教育を推進する上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

第7分科会 自立と共生

1 研究主題

自立と共生を図り、実践的態度を育む教育の推進

2 趣旨

現在、障害の有無にかかわらず、人々が互いに人格と個性を尊重しあう社会の実現が求められている。学校教育においては、すべての子どもたちが、各自の能力を生かし、共に生活する中で、互いに認め合い尊重し合う心を育むことが重要である。とりわけ特別な配慮を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導と支援を行うことは不可欠である。そのためにも、校長は自ら特別支援教育に対する理解を深めるとともに、教職員の共通理解や関係機関との連携に基づく支援体制を充実させなければならない。

一方、近年における地球規模での自然環境の悪化に伴い、環境破壊の抑止、生物多様性の保全等の考えに立ち「持続可能な社会」の理念に基づいた循環型社会の早期実現が求められている。また、少子高齢化社会の到来は、人間関係の希薄化を一層深刻な状況へと進行させている。今、互いの基本的人権を尊重し、共に豊かに生きていこうとする考えに立った共生社会の実現が求められている。

学校教育においては、次代を担う子どもたちに、自立した個人として積極的に社会参加しようとする態度を育むとともに、将来にわたり社会や自然環境などの様々な課題に対して主体的に関わり、実践的に解決しようとする力を育むことが大切である。

本分科会では、児童の自立を図るための特別支援教育、心を結ぶ未来社会の実現を可能にする実践的な態度を育む環境教育等を推進するための具体的方策を明らかにする。

3 研究の視点

(1) 子どもの自立を図る特別支援教育の推進

「共生社会」とは、誰もが互いに人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。

特別支援教育は共生社会の形成に向けて、インクルーシブ教育システムの構築に不可欠なものである。特別支援教育を推進していくためには、障がいのある子どもの自立や社会参加に向け、医療、福祉等との連携を強化し教育の充実を図ることが大切である。また、そのような子どもが地域社会の中で積極的に活動し、地域の同世代の子どもや人々との交流を通して、地域の生活基盤を形成することも重要となる。そして、周囲の人々が障がいのある人や子どもと共に学び合い生きる中で公平性を確保し、社会の構成員としての基礎を作っていかなければならない。

校長は、このようなことを踏まえ、障がいのあるなしにかかわらず、すべての子が授業内容がわかり、学習活動に参加している実感・達成感をもちながら生きる力を身につけるよう環境整備を進めていく必要がある。

本分科会では、このような視点に立ち、子どもの自立を図る特別支援教育を推進する上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 「持続可能な社会」を目指した環境教育等の推進

科学技術の進歩や経済の発展は、人々の暮らしを便利にした一方で、環境破壊や人間関係の希薄化など、多くのひずみを生じさせた。この状況から脱却し、将来にわたり「持続可能な社会」をつくることの出来る人材の育成が、学校教育に強く求められている。

学校では、子どもたちが環境問題に対して主体的に気付き、考え、行動する実践力や、身近な自然とのふれあいや社会への働きかけにより、感性を磨き、解決を図ろうとする心情を育んでいくことが必要となる。

このような視点に立ち、環境教育に対する主体的な実践力や感性を育む学校づくりを主軸として、家庭や地域、関係機関とも積極的に連携し、学校の枠を超えた環境等の教育活動を推進する上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

第8分科会 連携・接続

1 研究課題

家庭・地域・異校種等との連携・接続の推進

2 趣旨

近年、家庭における教育力の低下や、加速化する少子高齢化など、社会や家庭生活を取り巻く環境が大きく変化している。そのため、基本的な生活習慣の欠如、自制心や規範意識の希薄化、コミュニケーション能力の不足など、子どもたちの成長に関わる様々な課題が生じ、学校教育の場においても指導上の弊害となることが多い。

このような現状の中で、心身ともに健全な子どもを育むためには、家庭や地域の教育力向上を図るとともに、これまで以上に、学校・家庭・地域の連携を深めていくことが重要である。

これからの学校は、教育活動への理解や支援を一方向的に求めるだけでなく、家庭や地域と常に情報を共有しつつ、自ら地域社会に貢献していくという視点を大事にしなければならない。

また、『福井型18年教育』の趣旨を踏まえ、これまで積み重ねてきた、保・幼・小・中の連携と接続についての実践を振り返り、子ども一人一人の輝く未来を見据えた、より実効性のある組織的な取り組みを推進していかなければならない。

3 研究の視点

(1) 家庭・地域等と連携し、課題の解決に向けて取り組む学校づくりの推進

これまで学校は、“家庭に開く”・“地域に開く”のために、保護者や地域の方が来校しやすい環境の整備、学校便りやホームページによる情報の発信、授業・学校行事等における地域人材の活用など、様々な取り組みを行ってきた。

これからの学校は、家庭や地域と一体となり、様々な課題の解決に向けた双方向の連携を推進していくことが重要であり、次代を担う子どもたちの育成につながる学校づくりを目指していかなければならない。

このような視点から、これまで以上に、家庭や地域の人々の学校教育活動への参画を促進し、意見や要望、期待を的確に反映していくことによって双方向の連携を推進していくための、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 異校種間の連携と円滑な接続を図るための組織的な取組の推進

学校は、長期的な視点に立ち、豊かな人間性と、未来を切り拓いていく力の育成を目指して教育活動を推進しなければならない。そのためには、保・幼・小・中それぞれの校種が、子どもの成長過程の中で自己の役割と位置づけを理解し、次の校種へと繋げていくという自覚を持ち、互いの連携・接続に組織的に取り組むことが重要である。

このような視点から、円滑な接続に向けた異校種間の学びの連続性を重視した取組を推進していく上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

【資料1】 「福井型8分科会」一覧(H27年度から～)

全国の13分科会						福井型8分科会	研究課題	
研究領域	三重大会の分科会		Key Word	埼玉大会の分科会				Key Word
I	学校経営	1	経営・ビジョン	学校経営ビジョン	1	経営・ビジョン	学校経営ビジョン	①創意と活力に満ちた学校経営ビジョン ②経営ビジョンの具現化と活力ある組織づくり ③教育改革推進のための学校づくりと学校評価、教員評価
		2	組織・運営	運営組織の活性化	2	組織・運営	運営組織の活性化	
		3	評価・改善	学校評価、教員評価	3	評価・改善	学校評価、教員評価	
II	教育課程	4	知性・創造性	確かな学力	4	知性・創造性	確かな学力	④知性・創造性(確かな学力)を育む教育課程のマネジメント ⑤豊かな人間性を育む教育課程のマネジメント ⑥健やかな体を育む教育課程のマネジメント
		5	豊かな人間性	道徳教育、人権教育	5	豊かな人間性	道徳教育、人権教育	
		6	社会形成能力	ボランティア教育	6	健やかな体	体力育成、健康教育	
III	指導・育成	7	研究・研修	校内研修・研究	7	研究・研修	校内研修・研究	⑦学校の教育力を向上させる研究・研修の推進 ⑧これからの学校を担うリーダーの育成
		8	リーダー育成	ミドルリーダー育成	8	リーダー育成	ミドルリーダー育成	
IV	危機管理	9	学校安全	安全教育、防災教育	9	学校安全	安全教育、防災教育	⑨自らの命を守る安全教育の推進 ⑩いじめや不登校を生まない学校づくりと危機管理システムの構築
		10	健全育成	いじめ、不登校対応	10	危機対応	いじめ、不登校対応	
V	教育課題	11	健康・環境	健康教育、環境教育	11	社会形成能力	社会力育成、キャリア教育	⑪社会に参画する力の育成とキャリア教育の推進 ⑫自立と共生を図る特別支援教育、環境教育の推進 ⑬家庭・地域社会との連携、異校種との円滑な接続の推進
		12	自立と社会性	特別支援教育、キャリア教育	12	自立と共生	特別支援教育、環境教育	
		13	連携・接続	家庭地域連携、保幼小中の接続	13	連携・接続	家庭地域連携、幼小中接続	

